

第45回ASEAN議員会議（AIPA）総会派遣参議院代表団報告書

団 長	参議院議員	星 北斗
	同	石橋 通宏
同 行	国際会議課	牧志 俊
会議要員	同	勝俣 妃

1. 始めに

第45回ASEAN議員会議（AIPA）総会は、令和6（2024）年10月19日（土）から21日（月）まで、ラオス人民民主共和国・ビエンチャンのナショナル・コンベンションセンターにおいて開催された。会議には、加盟国8代表団（ブルネイ、カンボジア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ及びベトナム）、オブザーバー国の15代表団（日本、アルメニア、オーストラリア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、カナダ、中国、インド、モロッコ、ノルウェー、韓国、ロシア、東ティモール、トルコ及びウクライナ）、ゲスト国の3代表団（アルジェリア、バーレーン及びドイツ）、AIPA開発パートナーの8代表団（東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）、国際保護コーカス財団（ICCF）、アジア議会センター（PCAsia）、国連開発計画（UNDP）、国連食糧農業機関（FAO）、国連女性機関（UN Women）、米国国際開発庁（USAID）及びウェストミンスター民主主義基金（WFD））及びASEAN事務局が出席した。

AIPAは、ASEAN域内の議会間組織であり、東南アジア地域の平和、安定及び繁栄のため、議会間の協力及び交流の促進を目的とし、毎年1回総会を開催している。本院は、東南アジアの各国議会人との協力関係を強化するため、1994年（第15回総会）以降、公式代表団を派遣している。

以下、本報告書では、本代表団の活動を中心に今次総会の概要を報告する。

2. 総会の概要

今次総会は、「ASEANの連結性及び包摂的成長の強化における議会の役割」というテーマの下に開催され、サイソンポーン・ポムヴィハーン・ラオス国民議会議長・AIPA議長が議長を務めた。

代表団は総会期間中、開会式、第1回全体会議及びAIPAと日本との対話に出席した。また、星北斗団長は、開会式に先立ち、加盟国代表団団長、他のオブザーバー国代表団団長等と共にサイソンポーン議長を表敬訪問した。

（1）開会式

開会式は、19日（土）午前に行われ、サイソンポーン議長が演説した後、トンルン・シースリット・ラオス国家主席が演説した。

まず、サイソンポン議長は、ASEANの共通の目標の前進に向けた対話のためのプラットフォームとしてのAIPA総会の重要性に言及し、今次総会のテーマである「ASEANの連結性及び包摂的成長の強化における議会の役割」と、ASEAN共同体ビジョン2025、地域の連結性、強靱性及び包摂的な開発に焦点を当てたASEAN議長国ラオスのテーマとの整合性を強調した。また、サイソンポン議長は、ASEANの戦略的な目標に向けた情報交換及び調整を促進する手法を通じてAIPAとASEANとの間で行われている協力を称賛し、全ての加盟国の包摂的な利益を可能にする調和的なASEAN共同体を促進しつつ、地域の安定、経済統合及び開発格差の是正に貢献するAIPAの取組を強調した。最後に、各代表団間の活発かつ建設的な対話を奨励し、政治、経済、社会、女性及び若者に関する主要な課題についての議論を期待するとともに、今次総会が、協力の強化、課題への対処及びASEANの最も重要な目標である連結性と包摂的な成長への将来的な方向性を見いだす機会となる旨述べた。

次に、トンルン国家主席は、ASEANが、その多様性にかかわらず一体性を有していることを強調し、平和、安定及び相互成長への地域のコミットメントを称賛するとともに、今次総会のテーマは、持続可能な開発のための2030アジェンダにおけるより広範な目標を反映するとともに、ASEAN共同体ビジョン2025及び連結性の中心地となるというラオスの意欲のいずれにも整合しており、その重要性を更に認識する旨述べた。また、ASEAN市民の権利を代表し地域協力を促進するAIPAの極めて重要な役割を強調しつつ、開発格差の是正、地域の生活向上及び強靱で統合されたASEANの発展へのAIPAの貢献を評価した。さらに、特にASEAN議長国としてのラオスのASEANへの積極的な関与を強調し、東南アジアの約7億人の人々に対し、社会経済的な機会を創出し、きずなを深化させたと述べた。最後に、今次総会が、ASEANと、そのパートナーとの間の協力強化のための不可欠なプラットフォームとなることを強調し、連結性のある、強靱かつ持続可能なASEANの構築のための更なる協力を奨励した。

その後、トンルン国家主席は、サイソンポン議長及びシティ・ロザイメリヤンティ・ハジ・アブドゥル・ラーマンAIPA事務総長と共に、総会の開会を宣言した。

（２）第１回全体会議

第１回全体会議は、19日（土）午後に行われ、各国の代表が演説を行った。

各加盟国の代表は、人々の代表としての議会人の果たす役割及び責任、AIPA加盟国、オブザーバー国及びAIPA開発パートナーの間で継続した建設的な対話及び協力を行う必要性、連結性及び包摂的成長の強化のための具体的行動の提案、説明責任、人々の信頼及びグッド・ガバナンスを確保する上での議会による監視の重要性、周縁化された共同体における情報格差を埋める必要性、人工知

能（A I）に関するA S E A N内の協力メカニズムを制度化する必要性、グローバルな課題に対処するためのA S E A Nの一体性及びA S E A N全域における立法的協力の重要性等について述べた。

続いて、星団長を始め、オブザーバー国の代表が演説を行った。

星団長は、まず、日本は世界に先んじてA S E A Nとの対話を開始し、昨年、日本A S E A N友好協力50周年という歴史的節目を迎えたことに言及し、この半世紀の間、日本とA S E A Nは互いに主要な貿易・投資の相手であるのみならず、大規模な自然災害や新型コロナウイルス感染症といった危機の際に手を差し伸べ合うなど「心と心」のつながる真の友人として、幅広い分野で緊密に協力してきたことを強調し、日本がアジアの一員としてA S E A Nの平和、安定及び繁栄に寄り添えたことをうれしく思う旨述べた。次に、日本はA S E A Nの中心性・一体性及びA S E A Nが掲げる「インド太平洋に関するA S E A Nアウトック」を全面的に支持している旨述べ、昨年新たに発表した「日A S E A N包括的連結性イニシアティブ」の下、幅広い分野でA S E A Nの連結性強化に貢献していく旨表明した。さらに、世界が様々な課題に直面する中、立法や政策形成に携わる各国の議会人が相互理解を深め、知識や経験を共有する重要性がこれまで以上に高まっている旨指摘し、共通の課題への対応や、地域の統合、包摂的成長に向けたA S E A N各国代表団との率直な議論を通じて連携を一層緊密にしてい

（3）A I P Aと日本との対話

20日（日）午後、代表団は、A I P A加盟8か国の議員15名と約1時間にわたり、統合及び包摂的成長に向けた議会間協力をテーマに意見交換を行った。

冒頭、星団長は、A I P A加盟各国議員と重要な議題について意見を交わすことのできる機会を楽しみにしていたと述べた。その上で、昨年が日本A S E A N友好協力50周年という歴史的節目であったことに言及しつつ、半世紀にわたり、日本とA S E A Nが幅広い分野で緊密に協力し、自然災害などの試練に際して互いに手を差し伸べ合う中で、信頼のパートナーとして関係を築き上げた旨強調した。最後に、日・A S E A Nの強固な相互信頼関係を次世代につなげるべく、更なる信頼関係の醸成、A I P A及び各国との議会間交流の促進を図るとの決意を表明するとともに、本対話において率直な意見交換を行いたい旨述べた。

続いて、A I P A加盟各国議員から、A S E A N地域に対する日本の支援についてそれぞれ謝意が表明されるとともに、地域の平和、安定及び繁栄を強化するための議会の貢献、気候変動、食料安全保障を始めとした共通の課題への対処、地域内外における議会間協力の重要性、日A S E A N包括的戦略的パートナーシップの評価、人的交流の促進に向けた協力体制等について、発言があった。

これらを受けて、星団長は、A I P A加盟各国議員から感謝の言葉とともに、更なる協力の発展並びに両国間及び日・A S E A Nの関係強化を求める声があつ

たことに言及した。次いで、特に共通する課題との指摘があったものとして、気候変動、インフラ開発、人的交流、ゼロエミッションに向けた取組及びテクノロジー分野での交流を挙げ、とりわけ、人的交流について、国と国とのやり取りは人と人とのやり取りとも言えることを指摘し、教育支援及び医療支援にも注目していく必要性を再認識した旨発言した。最後に、交流のための基本的な同意及び枠組みの重要性、さらには、各国とそれらについての共通の理解を深めていく意義を改めて感じた旨述べた。

次いで、石橋通宏議員は、まず、自身のAIPA総会への参加が前回に引き続き2度目であることに言及し、AIPA加盟各国議員から前向きな意見を頂いたことを非常にうれしく思う旨発言した。次いで、ASEAN各国と二国間及び多国間で議会の関係を強化する重要性を指摘し、議会間交流を更に拡大していくことを望む旨述べた。また、日本が急速な高齢化により労働力不足に直面する中、ASEAN各国から若い世代の人々が就労、留学又は研修のために来日し、日本の経済に貢献していることに感謝の意を表するとともに、双方の経済発展に資するものとなるよう関連する制度の改善に努めたい旨発言した。最後に、ミャンマーの深刻な状況に対する懸念を表明し、ミャンマーに一刻も早く平和と民主主義を回復すべく、ミャンマーとの対話や現状の打開において大変重要な役割を果たすASEAN各国と連携して取り組みたい旨述べた。

(4) 第2回全体会議

第2回全体会議は、21日(月)午後に行われ、各委員会の委員長等による報告が行われた後、報告書が採択された。次に、次回第46回総会を2025年9月7日(日)から14日(日)までマレーシア・クアラルンプールで開催することが決定された。最後に、サイソンポン議長及び加盟国8代表団の団長が共同コミュニケへの署名を行った。

(5) 閉会式

閉会式は、21日(月)午後の第2回全体会議に引き続き行われ、次回総会開催国であるマレーシアのジョハリ・アブドゥル下院議長が受諾演説を行い、最後に、サイソンポン議長が閉会挨拶を行った。

3. その他の活動

(1) 二国間会談

代表団は、総会期間中、東ティモール、タイ及びカナダの各代表団との二国間会談を行った。

東ティモール国民議会代表団とは、東ティモールのASEAN正式加盟後の展望、議会間交流を含めた様々なレベルでの交流の意義、労働分野等における両国の協力関係、ミャンマー等の地域情勢における対話の重要性等について、タイ国

会代表団とは、民主主義・人権・フェアトレードといった価値を共有し推進する重要性、ミャンマー情勢の現状及び事態打開に向けて両国が果たす役割、タイの政治情勢、両国の友好協力関係等について、カナダ議会代表団とは、国内外の情勢変化を踏まえた両国関係の展望、インド太平洋地域における地政学的課題への対処、他国との関係改善に向けて議会が果たす役割、移民施策における現状と対策等について、それぞれ意見交換を行った。

(2) バイカム・カティニャー・ラオス労働社会福祉大臣との懇談

代表団は、バイカム・カティニャー・ラオス労働社会福祉大臣と懇談し、ラオスから日本への技能実習生の送出しに係る現状及び課題、両国間の人的交流促進の必要性、労働分野における両国の協力強化の重要性、不発弾除去を始めとする両国間の協力関係等について意見交換を行った。

(3) トウンマリー・ヴォンパチャン・ラオス国民議会司法委員長兼ラオス日本友好議員連盟会長との懇談

代表団は、トウンマリー・ヴォンパチャン・ラオス国民議会司法委員長兼ラオス日本友好議員連盟会長と懇談し、あらゆるレベルにおける人的交流を今後も継続していく必要性、経済・保健・立法など幅広い分野での両国の協力関係、ラオスにおける日本語教育の環境整備、来年の日ラオス外交関係樹立70周年を見据えたハイレベルな交流の活性化への期待等について意見交換を行った。

(4) 視察

代表団は、マホソット病院、ラオス国立大学文学部日本語学科及びNMS Lao Sole（技能実習生送出機関）を訪問したほか、在留邦人との懇談を行った。

4. 終わりに

昨年、友好協力50周年を迎えた日本とASEANは、互いに主要な貿易・投資の相手であるのみならず、危機に際しては互いに手を差し伸べ合い、心と心のつながる真の友人として関係を深化させてきた。この間、ASEANは多様性の中での一体性を大切にしながら飛躍的に発展し、日本とASEANの友好協力関係は、半世紀にわたる信頼の積み重ねという礎を土台にして新たな時代の始まりを迎えた。

世界が複雑で複合的な課題に直面する中、法の支配、民主主義、人権を始めた本質的な原則を共有する日本とASEANが一層緊密に協力していくことがこれまで以上に求められている。今後とも、日本がASEANと協働し、地域及び世界の平和、安定及び繁栄に向けた取組を続け、この半世紀の間に培ってきた信頼のパートナーとしての協力関係を深化させていくことが重要である。

今次総会では、こうした観点から、団長演説において、ASEANの中心性・一体性等を支持する日本の立場に加え、「日ASEAN包括的連結性イニシアティブ」に基づき、幅広い分野においてASEANの連結性強化へ貢献していく決意を表明したほか、AIPAと日本との対話において、日本とASEANに共通する課題について認識を深めるとともに今後の日ASEAN協力関係について率直に議論した。また、二国間会談においては、地域における民主主義及び人権状況並びに政策課題への対処に議会が果たす役割等について忌憚のない意見交換を行った。今後もAIPA総会への継続的な参加を通じ、AIPA各国との活発な交流や意見交換を行うことで、議会外交の面から日ASEAN関係が更に強固なものとなることが期待される。

最後に、今次総会議長国を務めたラオスの議会関係者及びAIPA関係者の御厚情並びに在ラオス日本国大使館、視察先関係者等の多大なる御協力に対し、改めて感謝の意を表す。